

特集

Only one オンリー・ワン

ここにしかない資源を生かし、新しい発想で勝負する川根本町商工会青年部の挑戦



「夢の吊り橋を渡ってきました」と話す仲むつまじい2人。愛知県から遊びに来てくれたカップルだ。雑誌で川根本町のことを見てやってきたと言う。「水の青さに感動しました。新鮮な気持ちになりました。また来たいです」。この2人も「サスペンスブリッジ恋愛事件」の日帰り券の利用者。これからも末永く幸せに。そして川根本町のリピーターであり続けてほしい。

この町に古くからある「吊り橋」という資源を生かし、新しい視点で地域活性化を図ろうとする商工会青年部の挑戦は、町の人々に「何も新しいものを求めるばかりが脳じゃない」と訴えかけている。「お金をかけることがすべてではない」と教えてくれている。「今ここにありもので十分勝負ができる」ということを示してくれている。

まちの魅力を掘り起こすことは、何も難しいことではない。それはごく当たり前の日常の中にあるのだから。少し角度を変えて見つめてみるだけなのだから。

町外から来た人は「川根本町は素晴らしい町。魅力にあふれている」と言う。平成19年に本町で開かれた全国まちづくりフォーラムで、数多く聞かれた意見だ。吊り橋も、その魅力の一つ。そこにスポットを当てた商工会青年部。何より、この町を愛し、情熱を燃やす若者たちが自ら立ち上がり、新たな可能性を追求しているところが誇らしい。

始まったばかりの「奥大井サスペンスブリッジ恋愛事件」。まだ課題も多いと、事務局の西澤孝仁さんは言う。

「協賛してくれる宿泊施設や店舗が少ないのが現状です。観光客の皆さんには幅広い選択肢があった方が絶対に良いわけですから、これからもっと町内への周知を図り、協力していただける宿や店を増やしていきたいと考えます。パンフレットの内容やプランの利用方法も分かりやすくするなど、使い勝手の良さも追求していきたい。さらに新しいアイデアを盛りこんで内容を充実させていきたいと思っています。本企画が町内外に浸透するには、まだ時間も必要だと思う。まずは町の人に知ってもらうこと。より充実した企画へと発展させるため、これから多くの人にかかわってほしいと思っています」。

この企画は、資金があったから生まれたのではない。立派な施設を利用したわけでもない。人が生み出す「アイデア」があっただけだ。あなたもこの企画に参加することができる。本町を訪れたカップルに、ちょっと道案内やアドバイスを。これだって一つのかかわり方だ。ぜひ、自分はどうな形でかかわることができるかを考えてみてほしい。

まちを動かす力は、決してお金や施設が生むんじゃない。ここに生きる「人」の力が生み出すのだ。

終章 原点

企画は一步踏み出した。多くの人がかかわり、大きな動きへ

身の回りにあるものを、視点を変えて見つめ直してみることが、まちづくりの原点であると、商工会青年部の挑戦は教えてくれた。町の魅力を掘り起こし、新しい発想で勝負をかける若者たち。どれだけ多くの人を巻き込んでいけるかが、成否の力ぎだ。